

平成二十二年度 入学試験問題 第一日

国語総合・現代文

— 次の文章を読んで、後の問（問一～問六）に答えよ。

ア これからの人類の知的探究の方向性を特徴づける重要な概念として「多様性」があることは疑いない。多様性は、何十億年もかけて地球上で育まれてきた自然の生態系自体が持っている性質でもある。「万物の霊長」として自らを自然から切り離れた人類の歴史は、**A**、皮肉なことに、突き放したはずの自然の奥深さに「追いつく」果てしなき過程でもあった。

自らを乖離かいはりしなければ、追いつく必要もなかった。自然の中に埋没しているのであれば、その因果的法則を理解するとう努力を積み重ねるまでもなかった。ただ包まれて、生き、死んでいくだけでよかったのである。人間は、この宇宙の成り立ちを理解する「知性」を持ってしまったがために、未来を自ら律するという、意識なき実在たちからは浮遊した「特権」と「悩み」を抱えるに至った。

「多様性」は、これからの時代を特徴づけるもう一つの大切な概念である。「持続可能性」と深く結びついている。システムが持続可能でなければ、その中に多様性が育まれることもない。短い時間で更新され、リセットされてしまうようなシステムのの中では、多様性は育まれ得ない。多様性は、「持続可能性」の直接の果実である。「持続可能性」は、単なる現状の維持ではなく、**B**、多様な未来への積極的な企図きとなのである。

世の中が多様で複雑であるということは、容易には普遍的な原理を打ち立てられないことを意味するようにも思われる。

実際、多種多様な生物の棲まうジャングルの生態系を前にすると、それらを一つの普遍的な原理で把握することは至難の業であるようにも感じられる。だからこそ、「世の中は多様だ」という発言が、しばしば一般原理による単純な割り切りを戒める処世訓としても作用する。

地球環境の保護にかかわる意識が高まる中で、還元主義的世界観に対するアンチテーゼとして「多様性」が登場してきたという歴史的経緯は、無視するべきではない。世の中を単純に割り切り、コントロール可能な対象へと変えようとする人類の衝動は、豊かな生物多様性を内包する原生林を切り倒し、人間にとって価値の高い作物の単一耕作（モノカルチャー）を行うという形で地球上の生物多様性を破壊してきた。その衝動は、自らが管理可能なように都市空間をコンクリートや鉄やガラスで固めるといふ徹底した潔癖主義を導いてきた。人類は今、そのような愚行のしつぺ返しを受けつつある。

ここで、注意しなければならないことがある。確かに、容易には見通せない事態が進行していることは、多様性の涵養に資するように思われる。複数の相容れない要素が絡み合い、さまざまな変化を遂げていくプロセスは多様性を育む大切な契機となる。しかし、だからといって、多様性の存在自体が、「普遍性」を否定するのではない。<sup>1</sup>「多様性」は、「普遍性」の対立概念ではない。むしろ、容易には見通せないような「多様性」を貫き、それを生み出す普遍的な原理を見いだすことこそが、人類にとつての最大の知的探究の課題なのである。「進化論」を唱えたチャールズ・ダーウィンの偉大さは、この地球上の眩惑されるほどに多様な生物の種という一見手に負えない多様性を、進化を特徴づけ、推進する普遍的な原理の下に説明することに成功した点にあった。目に見えないバクテリア、多種多様な昆虫、地面を這いずり回るミミズ、空を飛ぶ鳥、海を泳ぐ魚。人間の日常的想像力をはるかに超えるさまざまな姿を見せる地球上の生きものたちは、決して、気まぐれな創造主によって一つひとつ手作りされたものではない。ダーウィンが明らかにしたように、「突然変異」と「自然淘汰」という原理の組み合わせによって、単純で原始的な生命のフォームから長い年月をかけて進化してきたのである。そこに働いていたのは、どのような生物種にも、生態学的地位にも通底する一つの普遍的原理であった。ダーウィンは、「普遍性」と「多様性」を、史上初めて論理的に整合性のある形で結びつけたのである。

生物の多様性の背後にDNAという普遍的遺伝原理が作用していることが明らかになったのは、ダーウィンが『種の起原』を出版してから約一〇〇年後のことである。

多様性は、ともすれば人を酔わせ、知性を麻痺させる。現代社会における価値観の分裂を言うことはたやすい。しかし、だからといって、人間の社会の多様性を、「人それぞれさ」とひとりで片付けてしまうのは知的な怠惰である。科学者は、より一般に学者というものは、たとえ目の前に一見手に負えないような多様性がある場合にも、決して諦めずに、その中を貫く普遍性を追い求めなければならない。そうでなければ、学問をする甲斐はない。

この宇宙の中の多様性を全て包み込む普遍性などないと諦めてしまったら、人類の歴史が誇るべき多くの知的な成果は存在しなかっただろう。自然の強靱な「持続可能性」が育んできた多様性に対抗するためには、人間の側にも「持続可能」な粘り強い知性が必要となる。そして、叡智が私たちが生きること資するためには、一筋縄ではいかない多様性の中に飛び込み、それでもなお、普遍性への志向を失ってはならないのである。

「多様性」と「普遍性」は必ずしも相容れない概念ではない。とはいっても、過去において、「普遍性」を標榜するところが時に多様性を破壊し、モノカルチャー的な世界の実現に力を貸す結果を招いてきたことも事実である。

「普遍性」という概念の用法を誤ると、多様性を育む自然の中の傾向とは異なる方向に世界を導いてしまう。「人間にとつての効用」という単一の原理で割り切つて形成された地上の様子がどのようなものになるかは、大都會の中で自分の周囲を眺めればわかることである。ガラスや金属といった表面的な輝きを剥いでみれば、そこにあるのは灰色に塗り込められた単調さである。熱帯雨林の中のさまざまな生きものの奏でる鳴き声は、そこには響かない。

多様性を刈り込み、この世界を単一の価値観で塗り込めるかに見える「普遍性」概念の作用がある。たとえば、有用な商品作物を世界中で大量に生産し、単調な生態系を形成してきた人類の営為がある。異なる文化、思想を持つ人々に対する不寛容の歴史も、「普遍性」概念の暴走である。昨今の「グローバリズム」の嵐の中で、単一の価値観、社会システムが地球上のさまざまな地域を覆うかに見える動きもまた、世界の多様性を減少させる「普遍性」の過剰作用の結果である。世界中

に数千の異なる言語があるという現状の中で、そのような言語多様性をないがしろにするかに見える英語への一極化も同様に、「普遍性」概念の行きすぎた適用である。

自然界における生物のありさまを見ればわかるように、ある場所に適した表現形質は、他の場所でも適しているとは限らない。約四億年前のデヴォン紀にすでに化石が見いだされるシーラカンスは、池や川などの淡水域では繁殖できない。生きものたちは、それぞれに適した生態学的地位の中で、他の生きものたちと肩を寄せ合って生きている。

X  
と見なされる時、「普遍性」の概念は劇薬的副作用をもたらす。ある社会では有効に機能する制度が、他の社会でも効果を上げるとは限らない。「普遍性」を標榜するということは、ある単一の世界観、価値観を異なる文化背景を持つ人たちに押しつけることを意味するのではない。「普遍性」概念の誤用は、国際政治においては常に軋轢を生んできた。ある国で成功した「改革」が、別の国でも成功裡に適用できるとは限らない。全ての場所である原理が成り立つと考えることは、多様性の破壊へと結びつく。

歴史的背景も、文化的な伝統も異なり、すなわち容易には理解できない他者を自らの価値観で判断してしまうことは、典型的な「普遍性」概念の誤用である。「普遍性」を標榜した他者の異質性に対する不寛容が、時には大量虐殺や民族抹殺といった悲劇に結びつくということを、人類は二十世紀において嫌というほど経験してきた。

地球上のさまざまな生物の種の多様性を生み出す原動力となってきた「突然変異」や「自然淘汰」といった普遍的概念と、世界をモノカルチャー化しかねない「普遍性」の押しつけは、明らかにその成り立ちが違う。両者を混同したままでは、私たちは生きるための道筋を失ってしまうことだろう。

もし、これからの人類が「多様性」やそれを育む「持続可能性」に自らの未来を託したいのであれば、また地球が成り立つてきた原理にもう一度寄り添いたいのであれば、私たちは、つまりは、「普遍性」という概念自体を変えなければならぬ。とりわけ、その現実における作用の様式を改めなければならぬ。

私たちは、「普遍性」概念を精査しなければならない。誤用や不適切な適用の事例に目をとられて、多様性と普遍性を二

項対立的な図式の下にとらえることで満足してはいけぬ。多様性を生み出す「普遍性」の力強い作用の芯をしつかりと把握しなければならぬのである。

「普遍性」が多様性を生み出すのは、それが、結果ではなくプロセスに作用する時である。ダーウィンが明らかにしたように、生物の生存、子孫の繁栄にかかわる普遍的な拘束条件は、実際、驚くべき生物多様性を生み出す原動力になっている。生物の種の進化を司る原理は、地球上のどの場所でも同じであった。それでも、今日のような生物多様性が生じた。「普遍性」は、動的プロセスの結果として生まれる表現型自体にかかわると見なされるべきではない。ただ一つの「美」の規範があり、唯一の「正義」があると誤信してしまふ時に、「普遍性」は多様性を刈り込む鎌の役割を担ってしまふ。主体にとって何が「美」か、何が「正義」かということを決定する普遍的な動的プロセスが存在するのであって、その結果生み出されるものはさまざまであるという視点が、より大切である。

「普遍性」を動的プロセスにおいてとらえるということは、別言すれば、平凡な事象と傑出した出来事がどちらも同じ原理によって導かれているということとを認識することである。画期的な事績を残す天才も、ありきたりの日常を送る凡人も、社会の中でその人格や才能がどのように形成されたかという動的な視点から見れば、同じ普遍的原理に基づいている。

世界を単純に割り切ろうとする原理主義も、人それぞれだという相対主義も、知的怠惰のモラル・ハザードから逃れられない。「みんな違ってみんないい」という多様性の恵みが普遍的原理によってもたらされることを精査してこそ、私たち人類は本当の意味での「多様性讃歌」を奏でることができる。

(茂木健一郎著『疾走する精神』に基づく)

(注) ○還元主義……多様で複雑な事象は、単一の基本的要素に置き換えて説明すべきだとする考え方。

○アンチテーゼ……ある主張や方式に対抗して出された主張や方式。

○モラル・ハザード……道徳的危険。倫理の欠如。

問一 傍線部ア「これからの人類の知的探究の方向性を特徴づける重要な概念として『多様性』があることは疑いない」とあるが、多様性の説明として不適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 多様性とは、長い時間をかけて育まれた自然の生態系そのものが持つ、奥深さでもある。
- 2 多様性とは、短い時間で更新され、積み重なるもののないシステムの中では育まれないものである。
- 3 多様性とは、単なる現状の維持ではなく、より豊かで複雑な未来をもたらそうとする力である。
- 4 多様性とは、持続可能なシステムのもとで、ある年月積み重ねられ、育まれた性質である。

問二 空欄  ・  に入る最も適切な言葉を、次の1～6の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入せよ。

- ただし、同じものを繰り返し使用してはならない。解答番号は、A  ・ B
- 1 さらに
  - 2 しかし
  - 3 ゆえに
  - 4 そして
  - 5 むしろ
  - 6 つまり

問三 傍線部イ「『多様性』は、『普遍性』の対立概念ではない」とあるが、普遍性と多様性の関係は本文中でどのように述べられているか。最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

- 1 生物の進化に関する普遍的な原理が生物の多様性を生み出すのと同時に、多様性もまた普遍性を育むという双方向の関係である。
- 2 地球上に存在する生物たちが見せる多様性の根底には、原始的な生命のフォームから突然変異と自然淘汰を繰り返すという普遍性が存在している。
- 3 ダーウィンの偉大さが、生物の多様性を普遍的な原理の下に説明した点にあったことからわかるように、多様性よりも有用な概念として普遍性は存在している。
- 4 複数の相容れない要素が絡み合う環境で育まれた多様性と、世の中を管理可能なものとする普遍性は、独立して存在し、それぞれが個別に社会に影響を与えている。

問四 傍線部ウ「『普遍性』という概念の用法を誤ると、多様性を育む自然の中の傾向とは異なる方向に世界を導いてしまう」とあるが、普遍性という概念の誤用の具体例として不適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、5

- 1 人間にとって価値の高い作物を世界中で栽培し、豊かな原生林を切り倒すなど、自然の生態系を壊してしまうこと。
- 2 他の社会で育まれた文化よりも自らの文化に価値を見だし、押しつけて、当該地域の文化を失わせてしまうこと。
- 3 特定の場所で生息する種に対して、その環境に閉じ込めることで、進化の多様性を奪ってしまうこと。
- 4 自らの常識にとらわれ、それとは違う考え方の他者を排することで、管理しやすい単調な社会を築いてしまうこと。

問五 空欄Xに入る最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、6

- 1 「ある場所で成立する命題は、他の場所でも成立する」あるいは「成立すべきだ」
- 2 「ある場所で有効に機能する制度も、他の場所でも有効であるかはわからない」
- 3 「ある国で過去に成功した事例は、他の場所においても成功する可能性がある」
- 4 「ある社会で見いだされる真理はその社会特有のものである」したがって「他の社会へ当てはめてはならない」

問六 本文の内容と合致しないものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、7

1 「普遍性」は結果ではなく、それが生み出される過程に作用すると考えるべきである。たとえば、普遍的な「美」というものが結果としてあるのではなく、主体にとって何が「美」かを決定する過程に普遍的な動的プロセスが存在するのである。

2 地球上の生物の種の多様性を生み出した普遍的概念と、世界をモノカルチャー化しかねない「普遍性」の押しつけは、それぞれが及ぼす影響には大きな違いがあるが、実はその成り立ちは同じである。

3 多様な社会を目の前にしたとき、「人それぞれだ」として考えることを放棄してしまうことは怠惰である。一筋縄ではないかない多様性の中に飛び込み、その奥にある普遍性を諦めることなく探し続けた結果、人類は誇るべき知的な成果を实らせてきたのである。

4 世の中に、ただ一つの「美」や「正義」があると信じ、自らの価値観で他者を判断しようとしたり、自らの価値観を他者に押しつけようとすることは、世界をモノカルチャー化しかねない、典型的な「普遍性」概念の誤用である。

二 二 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 問 ( 問 一 ～ 問 六 ) に 答 え よ 。

携帯電話が人間の機能の何を拡大し、延長したかは明白である。自動車が空間と時間を圧縮したとするならば、携帯電話は空間も時間も消してしまったのである。地球の裏側にいる人間と、リアルタイムでコミュニケーションすることができ。それ以上に重要なのは、移動しながら常に情報を発信し、他者と交流できるような機能を人間に付け加えたということである。便利になったものである。

A、そもそも人間は携帯電話がもたらしたような機能、すなわちいつでもどこでも他者とコミュニケーションする必要があったのだろうか。いや、もっと別の問い方をしたほうがよいかもしれない。いったい人間の精神の何が、いつでもどこでも他者とコミュニケーションしたいという欲望を喚起したのだろうか。

周知のように、携帯電話が爆発的に流行するきっかけを作ったのはティーンエージャーである。女子高校生と言ったほうが適切かもしれない。携帯電話が大流行する前に、<sup>ア</sup>以前は考えられなかったことが日本中に瀰漫していた。

私には当時、ちょうどその当事者たる娘がいたので、その生態を観察することができた。娘は襖ふすまひとつを隔てた部屋で寝起きしていたのだが、私は、電話代の請求書を見て **X** とすることに<sup>ア</sup>なる。一気に数十倍になっていたのである。娘はほとんど夜通し、電話をかけていたのである。しかし、毎晩、夜通し話をするなどということがほんとうにあるのだろうか。私にはわかには信じられなかった。

しばらく後、この夜通しの電話というものが、相手と通話するためではないということが判明することになる。どういふことかという<sup>ア</sup>と、彼女らは必ずしも、受話器を耳につけたまま話をしてい<sup>ア</sup>るのではなく、ただ通話状態のままベッドの脇わきに置いていたのである。このような使い方はあるいは、私の娘とその相手だけに特有のものであったかもしれない。しかし、あちこちで、電話代が跳ね上がって悲鳴を上げている親の声が聞こえてきたとき、同じようなことが起こっているのではないかと容易に想像することができた。彼女らは、電話というものに、通話することとは別の機能を発見していたのである。

たとえば彼女らはお互いに自室でテレビドラマに興じている。そして、必要があれば受話器に向かつて大きな声で「ねえ、いまのどーだった。ちよーうけるよ」と叫ぶのである。相手のベッドサイドに放置されている受話器から、この声が漏れてくるのである。携帯電話が爆発的に流行するのは、それから間もなくしてであった。

社会学的な理屈を述べるなら、<sup>イ</sup>携帯電話の普及と核家族化には相関関係があるということになるだろう。家族が崩壊してゆき、人間は砂粒のように孤立化していった。しかし、人間はどこまでも孤立を耐えることはできない。**B**、どこかで他者と絶えずつながるためのツールを発見したというわけである。もはやひとと会うためにアポイントメント、場所の確保、時間の調整といった煩瑣はんさな手続きは必要ない。風呂やトイレの中でも、悩みを打ち明けたり、仕事の相談をしたりすることができる。話が不調に終われば、一方的に会話を終わらせるスイッチを押すこともできる。便利このうえない。

しかし、事はそれほど簡単ではないように私には思える。コミュニケーションとは、必要なとき、必要な相手と、自分の都合に合わせて交信することなのだろうか。嫌いな相手と、気の乗らない時間を共有することは、ただ避けて通るべきことなのだろうか。ほんとうは、コミュニケーションの必要性とは話の通じない相手と共生するところに生まれるものではないのだろうか。

口当たりがよく、柔らかいものだけを食べていたのでは人間は健全な成長ができない。私たちは身体的、心理的などころで、失ったものについては、まだカウントしていない。

失ったものは、私たちが利便性から獲得した時間そのものが持っていたものである。他者と会うために何時間も、ことによつたら何年も要した時間も、当初から意味のない時間であったと言うことはできない。経過した時間は無駄で不要なものだったわけではない。その間、私たちの周囲には、天候が移り、街角の風景が変わり、自分の中の何かもわずかながら成長し、変容していたはずである。

他者と出会うということは、私が通り過ぎてきた時間と同じ長さの、他者が通り過ぎてきた時間がひとつの場に引き寄せられるということに他ならない。ふとした相手の表情に表れる陰影は、この時間が作り出したものである。私たちは時間を迂回しなければ、ほんとうにはリアルな他者と出会うことはできないのだ。

出会う五分が経過した後の自分は、出会う前の自分ではない。印象が変わり、感情が動き、相手に対する理解の度合いが変わる。リアルであるということの意味は、この Y な変化をお互いに受け取ることであり、それを担保しているのはリアルなものを感じる人間が生まれながらに有している野性の感性である。

リアルなものとは時間的・空間的に無限の多様性をもつ世界である。時折相手はえもいわれぬ表情をする。この表情には形容する言葉がない。それでも、それが何を意味しているのかについて、私たちの感覚は捕捉することができるのである。受話器の向こう側から届けられる声にも、この変化の残滓を聞き分けることはできる。しかし、多くの場合それは声が大きくいか小さいか、高いか低い、ノイジーかクリアかといった二分法的な差異でしかない。それは、ほとんど音声データのカ

テゴリーであり、現実の縮減モデルなのである。

問題はこの先にある。この習慣を繰り返しているうちに、人間は往々にして、縮減化されたモデルによってしか、表現することができなくなる。あるいは他者をカテゴライズすることに慣れきってしまう。生まれてくるのは携帯電話的な人間であり、多様性を失ったやせ細った隣人なのである。

Z

のである。

(平川克美著『経済成長という病』に基づく)

問一 空欄 A・B

に入る最も適切な言葉を、次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入せよ。た

- だし、同じものを繰り返し使用してはならない。解答番号は、A 8・B 9
- 1 しかし
  - 2 たとえば
  - 3 なぜなら
  - 4 きつと
  - 5 そこで

問二 空欄 X・Y

に入る最も適切な言葉を、次の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入せよ。

解答番号は、X 10・Y 11

- |   |   |    |   |    |   |                       |   |                        |
|---|---|----|---|----|---|-----------------------|---|------------------------|
| X | 1 | 陶然 | 2 | 徒然 | 3 | 毅然 <small>きぜん</small> | 4 | 愕然 <small>がくぜん</small> |
| Y | 1 | 微妙 | 2 | 明快 | 3 | 煩瑣                    | 4 | 健全                     |

問三 傍線部ア「以前は考えられなかったこと」の説明として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、12

- 1 携帯電話が、それまで他者とコミュニケーションするためには必然的に生じるものであると考えられていた空間と時間の隔たりを消し去ってしまったこと。

- 2 地球の裏側にいる人間と、リアルタイムにコミュニケーションし、自分の意志や要望を伝え、相手の反応を知ることができるようになったこと。
- 3 携帯電話を利用するには高額の手話料が必要であるにもかかわらず、若者が携帯電話を利用し、毎晩、夜通し誰かと話をしていたこと。
- 4 若者が、相手と話をするためではなく、ただつながっている状態を保つために電話を利用し、毎晩、夜通し電話を通話状態にしていたこと。

#### 問四

傍線部イ「携帯電話の普及と核家族化には相関関係がある」の説明として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、13

- 1 人間が砂粒化したために、核家族化が進み、家族が崩壊した。その結果、孤独に耐えられない人間が携帯電話を手にするようになった。
- 2 核家族化が進んだことにより、人間が孤立化していった。個人は孤独を埋め合わせるべく携帯電話を手にするようになった。
- 3 携帯電話を手にした人間が家族とのコミュニケーションを避けるようになり、その結果として核家族化が進み、家族が崩壊した。
- 4 携帯電話は時間と空間の壁を越えてリアルタイムに他者とつながることができるため、人と人とを結ぶ「家族」という制度が不要になった。

問五 空欄

Z

に入る最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

14

- 1 コミュニケーションの利器が、人間を砂粒のように孤立化させる、ということになっている
- 2 コミュニケーションの利器が、実はディスコミュニケーションを加速させる、ということになっている
- 3 利用代金が高額であるにもかかわらず、コミュニケーションの利器として携帯電話が使われ続けてしまう
- 4 人々はその危険性を十分に認識しながら、コミュニケーションの利器として携帯電話を使い続けてしまう

問六

本文の内容と合致するものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

15

- 1 自動車の発明によって空間と時間の隔たりは縮小し、携帯電話の発明によってその隔たりは完全に消された。いつでもどこでも他者とながっていたいという欲望は人間が生まれながらに持っているものである。この欲望を満たすために携帯電話が発明された。携帯電話は、その欲望をとりわけ強く持っていた女子高校生たちにより熱狂的に支持された。
- 2 携帯電話が爆発的に流行するきっかけを作ったのは、ティーンエージャー、特に女子高校生たちである。彼女たちは、夜通し電話を 통화状態にしていた。それは、砂粒のように孤独になった自己の寂しさを紛らわせるためであった。彼女らによって携帯電話の新しい機能が発見され、吹聴された結果、携帯電話の人気が再燃することとなった。
- 3 携帯電話の発明により、人間の機能は拡大し、延長した。このように、新たに発明されるものによって、われわれの生活は便利になり、利便性を獲得してきた。しかし、その結果として私たちは、身体的・心理的な人間の野性の感性を鈍くしてしまった。今後はその回復に努めながら、携帯電話とうまく付き合っていくことが必要である。
- 4 人間が誰かと直に向かい合うとき、時間の経過とともに、相手の印象、相手に対する理解の度合いは変化する。人間の表情にはそのような変化が表れるものであり、人間はその変化を感受する野性の感性を生まれながらにして持っている。携帯電話は、その感性を鈍らせ、人間のコミュニケーション能力を低下させてしまうものである。

三 次の各問（問一～問九）を読んで、それぞれの指示に従って答えよ。

問一 次のA～Dの各文の傍線部のカタカナと、その後の1～4の傍線部のカタカナが同じ漢字となるものをそれぞれ一つ

ずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、

A

・ B

・ C

・ D

A 著名な作曲家にツカえ教えを受ける。

B 車を安くユズってもらった。

1 監督就任を固ジする。

1 これ以上のジョウ歩はできない。

2 類ジ品が市場に出回る。

2 土ジョウを改良する。

3 電流によってジ力が発生する。

3 池の水をジョウ化する。

4 パーティーで給ジを担当する。

4 ジョウ剤を服用する。

C 向上心をツチカう。

D 朝ツユに濡れた稲穂に秋の訪れを感じる。

1 会員数が三年間でバイ増した。

1 画ロウで個展を開く。

2 バイ審員制度について調べる。

2 隠し芸を披ロウする。

3 バイ償金を支払う。

3 ロウ電により火災が発生した。

4 細胞をバイ養する。

4 貴重な資源をロウ費した。

問二 次のA～Dの各群において、漢字の読み方（カタカナ表記）が正しくないものはどれか。それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A  ・ B  ・ C  ・ D

- A
- |   |          |
|---|----------|
| 1 | 隔月（カクツキ） |
| 2 | 門扉（モンピ）  |
| 3 | 慶事（ケイジ）  |
| 4 | 納屋（ナヤ）   |

- B
- |   |          |
|---|----------|
| 1 | 湖沼（コシヨウ） |
| 2 | 斜陽（シヤヨウ） |
| 3 | 気炎（キエン）  |
| 4 | 舌鼓（ゼツコ）  |

- C
- |   |          |
|---|----------|
| 1 | 担（カツ）ぐ   |
| 2 | 恭（ウルワ）しい |
| 3 | 煩（ワズラ）う  |
| 4 | 彩（イロド）る  |

- D
- |   |           |
|---|-----------|
| 1 | 種苗（シユビョウ） |
| 2 | 天賦（テンプ）   |
| 3 | 寡聞（カモク）   |
| 4 | 粗茶（ソチャ）   |

問三 次のA～Dの  に入る最も適切な語を、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。

解答番号は、A  ・ B  ・ C  ・ D

A この船はすでに何十年も使われており、もはや廃船とすべき  である。

- |   |    |   |    |   |          |   |    |
|---|----|---|----|---|----------|---|----|
| 1 | 窓口 | 2 | 論題 | 3 | 隘路（あいちろ） | 4 | 代物 |
|---|----|---|----|---|----------|---|----|

B 新しい社長に対して、社員はみな面従  の態度で接している。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 敗北 | 2 | 他律 | 3 | 背反 | 4 | 腹背 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

C その動物は、神出  でなかなか姿を見ることができない。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 鬼没 | 2 | 巡業 | 3 | 進行 | 4 | 動向 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

D 彼は、危機  のところでその事故を避けることができた。

- 1 同一                    2 快活                    3 一髪                    4 一発

問四 次のA、B、Cの各群において、意味の似ているものの組み合わせとして最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A  ・ B  ・ C

つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A  ・ B  ・ C

A				B			
4	3	2	1	4	3	2	1
復古	多作	絶対	音信	驕然	薄情	歴然	落第
革新	寡作	相對	消息	敢然	冷淡	同然	及第

C			
4	3	2	1
二度あることは三度ある	君子危うきに近寄らず	寄らば大樹の陰	虎の威を借る狐
七転び八起き	虎穴に入らずんば虎兇を得ず	好きこそものの上手なれ	笠に着る

問五 次のA・Bにおいて、例文の傍線部と同じ意味・用法のものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A  ・ B

記入せよ。解答番号は、A  ・ B

- A 例 大事にとつておいたきれいな空き箱を母に捨てられた。
- 1 テレビでニュースを見るにつけ、日本の行く末が案じられる。
- 2 山田先生は毎日、車で学校に來られます。

- 3 宝くじに当たって、信じられないほどの大金を手にした。
- 4 傘を持たずに外出していたところ、雨に降られてびしょぬれになった。

B 例 私はケーキが大好きだ。

- 1 今日は山田さんが家に遊びに来てくれる。
- 2 私の姉は私よりずっと料理が上手だ。
- 3 私が一番好きな果物はメロンだ。
- 4 去年の誕生日に友達が本をくれた。

問六 次のA・Bの傍線部の言葉の意味として最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入

せよ。解答番号は、A 33 ・ B 34

A 私は、いたたまれない気持ちになった。

- 1 もの悲しく寂しい
- 2 ある人物や出来事のことを気の毒に思う
- 3 ある人物や出来事のことを憎らしく思う
- 4 それ以上その場所に我慢していることができない

B 彼は、かいがいしく近所の子どもの世話をした。

- 1 仕方なく
- 2 気後れしながら
- 3 興味を持って
- 4 積極的にきびきびと

問七 次のA・Bにおいて、傍線部の漢字の意味が他と異なるものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。解答番号は、A 35 ・ B 36

	A	1	空白	2	空撮	3	天空	4	空港
	B	1	安穩	2	安直	3	安泰	4	安全

問八 次のA・Bの言葉の使い方として最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。

解答番号は、A 37 ・ B 38

A 触手

- 1 次々と出されるおいしそうな料理に思わず触手が動いた。
- 2 この分野に関してはライバル企業も触手を伸ばしてきているので対策が必要だ。
- 3 心から相手と触手を結んでこそコミュニケーションがはかれるはずだ。
- 4 ここまで問題が複雑化した以上、いったん触手をほどこいて最初から考え直そう。

B 新規

- 1 敵は新規巻き返しに出てくるに違いがないので決して油断してはならない。
- 2 当初と状況が変わったからには新規やり直しの覚悟が必要だ。
- 3 今日の会議で出された議題は新規持ち帰りにして検討することになった。
- 4 彼は今回の失敗に落胆することなく新規蒔き直しをはかっている。

問九 次のA・Bの言葉の説明として最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、その番号を記入せよ。

解答番号は、A  ・ B

A よしんば

- 1 しかし
- 2 そして
- 3 すると
- 4 たとえ

B さりとて

- 1 だからこそ
- 2 そうだからといって
- 3 したがって
- 4 にもかかわらず

〔国語の問題は以上です。〕